

施策評価（令和2年度）

施策評価調書

戦略3 新時代を勝ち抜く攻めの農林水産戦略			
施策3-7 地域資源を生かした活気ある農山漁村づくり			
幹事部局名	農林水産部	担当課名	農山村振興課
評価者	農林水産部長	評価確定日	令和2年8月25日

1 施策のねらい（施策の目的）

優れた景観を有する里地里山が県民共有の財産として後世に引き継がれるよう、地域資源を最大限に活用しながら、中山間地域の農業と農山漁村の維持に取り組みます。
また、災害から県民の生命と財産を守るため、地域の協働力を活用した保全管理や防災・減災力の強化を図ります。

2 施策の状況

2-1 代表指標の状況と分析

							施策の方向性(1)	
代表指標①	年度	現状値 (H28)	H29	H30	R1 (H31)	R2 (H32)	R3 (H33)	備考
中山間地域資源活用プラン策定地域数 (累積)(地域)	目標			45	50	55	60	
	実績	37	45	49	53			
	達成率			108.9%	106.0%			
出典:県農山村振興課「元気な中山間農業応援事業実績」	指標の判定			a	a			
分析 (推移、実績・達成率、順位等)	順位等	全国	—	—	—	—		
		東北	—	—	—	—		
	- 令和元年度は、新たに4地域でプランが作成され、累計53地域で活用プランが作成された。 - プランが策定された地域では、気候等の地域の特色や、農産物、伝統文化等の地域資源を活かして、農業生産の拡大に向けた取組が強化されている。							

							施策の方向性(2)(3)	
代表指標②	年度	現状値 (H28)	H29	H30	R1 (H31)	R2 (H32)	R3 (H33)	備考
水と緑の森づくり推進事業参加者数(累積)(百人)	目標			211	423	635	847	
	実績	—	—	223	457			H30年度から「水と緑の森づくり税事業第3期5箇年計画」に基づく取組を開始
	達成率			105.7%	108.0%			
出典:県森林整備課「秋田県水と緑の森づくり推進事業実績」	指標の判定			a	a			
分析 (推移、実績・達成率、順位等)	順位等	全国	—	—	—	—		
		東北	—	—	—	—		
	- 令和元年度の参加者数は234百人(累計457百人)であり、達成率は108.0%となった。 - 県民参加の森づくりを目指し、森林ボランティア団体等の活動や、次代を担う児童・生徒を対象とした森林環境教育活動への支援等、県民が森林・林業に対する理解を深めるための取組等を行っている。							

※ 指標の判定基準

「a」: 達成率 $\geq$ 100% 「b」: 100% $>$ 達成率 $\geq$ 90% 「c」: 90% $>$ 達成率 $\geq$ 80%「d」: 80% $>$ 達成率 又は 現状値 $>$ 実績値(前年度より改善) 「e」: 現状値 $>$ 実績値(前年度より悪化)

「n」: 実績値が未判明

2-2 成果指標・業績指標の状況と分析

2－2 成果指標・業績指標の状況と分析							施策の方向性(2)		
成果・業績指標①		年度	現状値 (H28)	H29	H30	R1 (H31)	R2 (H32)	R3 (H33)	備考
新たに企業や大学等と連携し里地里山の保全活動等に取り組む地域数(累積)(地域)	目標				8	12	14	16	
	実績	0	4	5	11				
	達成率			62.5%	91.7%				
出典:県農山村振興課「里地里山を守り継ぐプロジェクト事業実績」									
分析 (推移、実績・達成率、順位等)	順位等	全国	－	－	－	－			
		東北	－	－	－	－			
	- 企業や大学等（サポーター）と認定地域をマッチングし、農地の維持・保全につながる協働活動を実施できるよう、認定地域に対してサポーターの情報提供及び活動経費の助成を行った。 - 令和元年度の取組地域数については、「守りたい秋田の里地里山50」に認定された6地域において、新たに地域と企業・大学等のサポーターによる交流活動や保全活動等が行われたことで、概ね目標を達成している。								

							施策の方向性(2)(3)		
成果・業績指標②		年度	現状値 (H28)	H29	H30	R1 (H31)	R2 (H32)	R3 (H33)	備考
水と緑の森づくり事業による森林整備面積 (累積)(ha)	目標				900	1,800	2,700	3,600	H30年度より「水と 緑の森づくり税事 業第3期5箇年計 画」に基づく取組を 開始
	実績	—	—	—	859	1,752			
出典:県森林整備課「秋田県水と緑の森 づくり事業実績」	達成率				95.4%	97.3%			
分析 (推移、実績・達 成率、順位等)	順位等	全国	—	—	—	—			- 令和元年度は、マツ枯れやナラ枯れ被害が局所的に発生した箇所を集中的に整備を行ったことから、被害が点在した場合に比較して整備面積が少なくなり、結果として達成率は97.3%となった。 - 生育の思わしくないスギ人工林について、広葉樹と入り交じった混交林に誘導し、生物多様性など公益的機能がより発揮できる森づくりに取り組むとともに、松くい虫被害やナラ枯れ被害を受けた枯損木等の伐採による景観対策、放牧跡地等の広葉樹林への再生、クマ等の野生動物の出没抑制のための緩衝帯等の整備などを行った。
		東北	—	—	—	—			

							施策の方向性(4)		
成果・業績指標③		年度	現状値 (H28)	H29	H30	R1 (H31)	R2 (H32)	R3 (H33)	備考
ため池整備により解消される被害想定面積(累積)(ha)	目標				39,550	39,800	40,050	40,300	
	実績	39,347	39,413	39,538	39,697				
出典:県農地整備課「事業実績」	達成率				100.0%	99.7%			
分析 (推移、実績・達成率、順位等)	順位等	全国	—	—	—	—			
		東北	—	—	—	—			
	・ 令和元年度は、目標39,800haに対し、実績が39,697haとほぼ目標を達成した。 ・ 丸森地区ほか3地区において整備が完了し、新たに159haの被害想定面積が解消された。								

							施策の方向性(4)		
成果・業績指標④		年度	現状値 (H28)	H29	H30	R1 (H31)	R2 (H32)	R3 (H33)	備考
基幹的農業水利施設の整備箇所数(累積)(箇所)	目標				128	138	148	158	複数地区をまとめて採択した場合は、それぞれの地区数をカウント
	実績	108	121	128	141				
出典:県農地整備課「事業実績」	達成率				100.0%	102.2%			
分析 (推移、実績・達成率、順位等)	順位等	全国	—	—	—	—			
		東北	—	—	—	—			
	・ 令和元年度は、138箇所の目標に対し、実績が141箇所と目標を達成した。 ・ 大台野地区ほか2地区で整備に着手し、13か所で農業水利施設の補修・更新を行った。								

2-3 施策の取組状況とその成果（施策の方向性ごとに記載）

(1) 多様な資源を生かした地域ビジネスの展開【農山村振興課】	指標	代表①
- 市町村担当者等を対象とした各種会議や、個別の巡回指導を通じて、プラン策定による補助事業等のメリットについて説明を行い、プラン策定へ誘導した。 - 地域資源を生かした地域の活性化に意欲的な地域では、プラン策定への理解が進み、大仙市（3地域）、羽後町（1地域）で、新たなプランが策定された。 - 新たにプランが策定された地域において、移植機や管理機等の農業機械導入やパイプハウス等の施設整備を支援したことで、いちご等の施設園芸や特産物のにんにくの作付け、さらに土地利用型作物のそば、大豆の栽培が拡大した。		
(2) 里地里山の保全管理と鳥獣被害対策の強化 【農林政策課、農山村振興課、水田総合利用課、農地整備課、森林整備課】	指標	代表②、成果①②
- 農地中間管理機構を通じて、中山間地域の条件不利地域の農地を受け手経営体を借受けし、農地の継承に取り組む経営体に集積した（支援対象農地：143ha<△123ha>）。 - 秋田県の農山村地域の魅力を発信するため、「守りたい秋田の里地里山50」認定地域を対象に、「守りたい里地里山スタンプラリー」を開催し、実際に地域を訪問してもらう機会を創出した。 - ツキノワグマやイノシシ等の出没抑制と農作物の被害防止を図るため、被害防止研修や狩猟フォーラムを開催した（4回<△1回>）。また、市町村等による追い上げ、捕獲活動、緩衝帯の設置等による被害防止対策への支援を行った（7市町村<±0市町村>）。 - 売電収入による農業用施設の維持管理費の低減を図るため、由利本荘市上市地区ほか2地区において、農業用水利施設を活用した小水力発電の整備を進めた（令和元年度末の稼働施設数4か所<+1か所>）。 - 生育の思わしくないスギ人工林等を公益的機能の高い広葉樹との混交林へ誘導する誘導伐等を実施し、豊かな里山林を整備した（整備面積70ha<△48ha>）。 - 森づくり活動や森林環境教育等に、森林ボランティア団体や児童・生徒をはじめとした多くの県民が森林ボランティア活動支援事業や森林環境学習活動支援事業等に参加し、森林・林業への理解を深めた（令和元年度実績23,362人<+1,038人>）。 - 藪化した森林において、クマの出没抑制や森林環境の保全及び景観の向上を図るため、新たに市町村等が行う緩衝帯等の整備費に対して助成を行った（整備面積113ha<+54ha>）。		
(3) 森林の多面的機能の高度発揮【林業木材産業課、森林整備課】	指標	代表②、成果②
- 路網整備や高性能林業機械等の導入を促進し、間伐等の森林整備を進めた（間伐等森林整備面積速報値6,923ha<△197ha>）。 - 生育の思わしくないスギ人工林を広葉樹の混じった混交林へ誘導する誘導伐等を実施した（整備面積70ha<△48ha>）。 - 放牧跡地などに広葉樹を植栽し、森林の再生を図り、森林環境や公益性を重視した森づくりを実施した（整備面積14ha<△8ha>）。 - 駆除や薬剤散布、樹幹注入による防除を実施した結果、令和元年度の松くい虫被害量は減少した（松くい虫被害：8,650m³<△558m³>）。 - 駆除や樹幹注入による防除を実施したが、夏場の高温少雨という気候状況により、令和元年度のナラ枯れの被害量は増加した（ナラ枯れ被害量：7,188m³<+1,909m³>）。		
(4) 地域を守る防災・減災対策と施設の保全管理の強化【農地整備課、水産漁港課、森林整備課】	指標	成果③④
- 男鹿市真山2号地区ほか27地区において堤体の補強工事等を実施し、ため池の決壊等の未然防止を図った。 - 大仙市大野地区ほか25地区において施設の補修・更新を行い、農業水利施設の長寿命化や維持・管理コストの低減を図った。 - 平沢、椿（船川港）漁港沿岸において、高潮・津波・波浪等による被害から守るため、護岸改良工事を実施した。 - 山地に起因する災害を予防するため、治山工事や保安林等の森林整備等を実施した（97箇所<+6箇所>）。		

3 総合評価結果と評価理由

総合評価	評価理由
A	● 代表指標の達成状況については、①「中山間地域資源活用プラン策定地域数」、②「水と緑の森づくり推進事業参加者数」どちらも「a」判定であり、定量的評価は「A」。 ■ 代表指標の達成状況や施策の取組状況とその成果など総合的な観点から評価した結果、総合評価は「A」とする。

● 定量的評価: 代表指標の達成状況から判定する。

「A」: 代表指標が全て「a」、「B」: 代表指標に「b」があり、「c」以下がない、「C」: 代表指標に「c」があり、「d」以下がない

「D」: 代表指標に「d」、「e」を含む。ただし、「E」、「N」に該当するものを除く、「E」: 代表指標が全て「e」、「N」: 代表指標に「n」を含む

● 定性的評価: 成果指標・業績指標の達成状況を踏まえた上で、施策の取組状況とその成果、外的要因等から判定する。

■ 総合評価: 定量的評価を踏まえた上で、定性的評価を考慮して、総合的な観点から「A」、「B」、「C」、「D」、「E」の5段階に判定する。

4 県民意識調査の結果

質問文	豊かな農山漁村で生き生きとした暮らしが営まれ、農地・森林を守る活動などが行われている。					
調査年度		R1 (H31)	R2 (H32)	R3 (H33)	R4 (H34)	前年度比
満足度						
満足度	肯定的意見	8.7%	11.1%			+2.4%
	十分 (5点)	1.1%	1.9%			+0.8%
	おおむね十分 (4点)	7.6%	9.2%			+1.6%
	ふつう (3点)	35.6%	38.8%			+3.2%
	否定的意見	28.0%	27.2%			▲0.8%
	やや不十分 (2点)	17.7%	16.9%			▲0.8%
	不十分 (1点)	10.3%	10.3%			+0.0%
	わからない・無回答	27.8%	23.0%			▲4.8%
平均点		2.60	2.68			+0.08
調査結果の認識、取組に関する意見等						
○ 5段階評価の満足度の平均点は「2.68」で、「ふつう」の3より0.32低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。 「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は11.1%、「ふつう」は38.8%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は27.2%であった。また、「肯定的意見」と「ふつう」を合わせた割合は49.9%であった。 ○ 「不十分」又は「やや不十分」の理由や県に求める取組として以下のような意見があった。 ・地域の限界集落化が進み、里山は荒れる一方。県は後継者不足にもっと力を入れてもらいたい。休耕田活用のため若い人にもっと農林業の魅力を発信し里山の保全に努めてもらいたい。そのために補助金を出すのもよいのではないと思う。(男性/70歳以上/北秋田地域) ・高齢化・過疎化で、農地・森林が荒れている。(女性/60歳代/由利地域) ・以前見た景観と違っている。農地は作付けされてない所が多いし、草刈りもしないような所がある。熊が怖い。(女性/60歳代/鹿角地域)						

※端数処理の関係で満足度の割合の合計は100%にならないものもある。

5 課題と今後の対応方針

施策の方向性	課題(施策目標達成に向けた新たな課題、環境変化等により生じた課題 など)	今後の対応方針(重点的・優先的に取り組むべきこと)
(1)	○ 中山間地域の特性を生かした農作物、特産品の生産・販売拡大が進む地域がある一方で、取組が低調な地域があり、地域間の差が拡大している。	○ 各種会議や個別の巡回指導を通じて新規地域の掘り起こしを強化し、プラン策定による補助事業等のメリット措置を伝えながら、中山間地域資源の活用プラン策定へ誘導する。
(2)	○ クマの出没等により、農作物のみならず人身被害も発生している（令和元年度は16名の人身被害が発生）。（県民意識調査で同様の意見あり） ● 高齢化・過疎化が進み、農地・森林が荒れている。耕作放棄地も多く、草刈りなどの手入れもされていない所もあり、景観も変わってきている。（県民意識調査より）	○ クマの出没抑制のため、水と緑の森づくり税を活用し、藪化した森林等における緩衝帯等の整備を進める。 ● 農地中間管理機構を活用して担い手への集積を進めるとともに、中山間地域等直接支払制度による耕作放棄地の発生防止と、中山間地域農業活性化緊急基盤整備事業等による農地再生を引き続き推進する。また、造林補助事業や水と緑の森づくり事業を活用するほか、森林経営管理制度による整備を円滑に実施することにより、豊かな森林づくりを引き続き推進する。
(3)	○ 依然として生育が思わしくないスギ林や、松くい虫・ナラ枯れ被害が発生するなど、森林の持つ公益的な機能が十分発揮されていない。	○ 水と緑の森づくり税事業第3期5箇年計画（平成30～令和4年度）に基づき、豊かな里山林整備事業やマツ林・ナラ林等景観向上事業等を着実に実施し、健全な森林を守り育てていく。
(4)	○ 老朽化や耐震性への対応など、整備を必要とするため池が多く、その全てに早急に対応することは困難となっている。 ○ 標準耐用年数を超過している農業水利施設が全体の約35%を占めている。	○ 効率的な整備とともに、防災重点ため池でのハザードマップを活用した避難訓練や水位計の設置などのソフト対策を進めていく。 ○ 農業水利施設の補修・更新については、県営事業に加え、市町村や土地改良区が自ら行う老朽化対策についても支援し、長寿命化の取組を一層推進する。

※●は県民意識調査結果に関する課題と今後の対応方針

6 政策評価委員会の意見

自己評価の「A」をもって妥当とする。